

# MATRICE 600 PRO

## 免責事項と安全に関するガイドライン

V1.0 2016.10



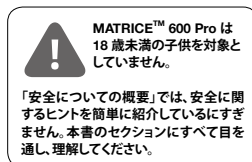
# 目次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| <b>安全についての概要</b>        | 2  |
| <b>注記</b>               | 4  |
| <b>用語集</b>              | 4  |
| <b>フライト前チェックリスト</b>     | 4  |
| <b>免責事項および警告</b>        | 5  |
| <b>準拠情報</b>             | 7  |
| FCC 警告メッセージ             | 7  |
| IC RSS 警告               | 7  |
| KCC 警告メッセージ             | 8  |
| NCC 警告メッセージ             | 8  |
| EU 準拠声明                 | 8  |
| <b>使用を開始する前に</b>        | 9  |
| <b>各部部品</b>             | 9  |
| 純正部品と機能部品について           | 9  |
| 送信機                     | 9  |
| センターフレーム                | 10 |
| フレームアーム                 | 10 |
| 格納式モジュール                | 10 |
| ランディングギア                | 10 |
| フライト・コントロール・システム        | 10 |
| Lightbridge 2 エアシステム    | 11 |
| GPS-Compass Pro         | 11 |
| 推進システム                  | 12 |
| DJI GO アプリ              | 13 |
| ファームウェア                 | 13 |
| <b>本製品のお手入れ</b>         | 14 |
| 保管と輸送                   | 14 |
| メンテナンスと保管方法             | 14 |
| <b>フライトの必須条件</b>        | 15 |
| 気象条件と周辺環境               | 15 |
| フライトコントローラーおよび通信との干渉    | 15 |
| 責任をもった機体操作              | 15 |
| <b>フライトモード、機能と警告</b>    | 17 |
| フライトモード                 | 17 |
| フェイルセーフと Return-to-Home | 17 |
| 低バッテリー                  | 18 |
| <b>規制順守と飛行禁止区域</b>      | 19 |
| 規制                      | 19 |
| 飛行禁止区域                  | 20 |

# 安全についての概要

## 1. 環境に関する考慮事項

- ・建物などの障害物がある場所では絶対に飛行させないでください。
- ・大勢の人が集まっている場所の上空やその付近を飛行させないでください。
- ・120 m を超える高度での飛行は避けてください。
- ・海拔 2,500 m 以上で飛行する際は、十分に注意してください。
- ・気温 -10 ~ 40° C の穏やかな気象条件のときに飛行させてください。
- ・屋内を飛行させる場合は、機体の安定化機能が阻害されることがあるため特に注意してください。



## 2. フライト前チェックリスト

- ・送信機と機体のバッテリーが完全に充電されていること。
- ・プロペラおよびフレームアームが展開されていること。
- ・プロペラの状態が良好で、しっかりと締め付けられていること。
- ・GPS-Compass Pro 上のすべての矢印が機体の前方に向いていること。
- ・すべての部品がしっかりと取り付けられており、ケーブルが正しく、しっかりと接続されていること。
- ・モーターに問題がないこと。
- ・新しい飛行場所ごとに、またはソフトウェアに表示が出た場合は必ず、コンパスキャリブレーションをすること。

## 3. 操作

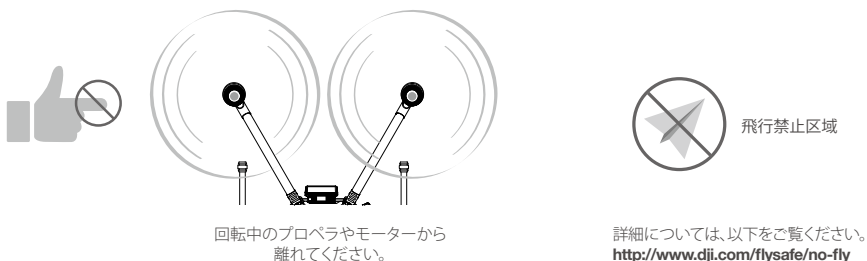
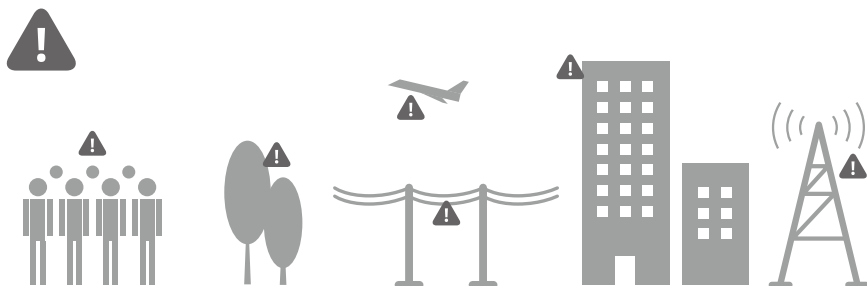
- ・回転中のプロペラとモーターから離れてください。
- ・常に、視野内 (VLOS) に機体を捉えておいてください。
- ・機体が飛行している間は、緊急事態でない限り、モーターを停止しないでください。
- ・フライト中は電話の着信に応答しないでください。
- ・飲酒または服薬時には、飛行させないでください。
- ・Return-to-Home を実行する前に、障害物回避のため、あらかじめ高度を調整してください。
- ・低バッテリー警告が表示された場合は、安全な場所に着陸させてください。
- ・着陸後、まずモーターを停止させ、次にインテリジェント・フライト・バッテリーをオフにし、その後送信機をオフにします。
- ・常に機体の全制御を維持し、DJI GO™ アプリに依存しないでください。常に機体を視野内に捉え、フライトを目視で観察してください。ご自身の適切な裁量により機体を操作し、適宜、手動で障害物を避けてください。フライト前に適切なフェールセーフ高度および Return-to-Home 高度を設定しておくことが重要です。

## 4. メンテナンスと保管方法

- ・欠けたり損傷したり古くなったプロペラは使用しないでください。
- ・推奨保管環境温度: 22 ~ 28° C。
- ・バッテリーの安全な使用に関する詳細情報については、「インテリジェント・フライト・バッテリー安全ガイドライン」を参照してください。

## 5. 現地法および規制の順守

- 飛行禁止区域では飛行させないでください。飛行禁止区域の詳細リストは、以下のサイトでご覧いただけます (<http://flysafe.dji.com/>)
- DJI が指定する飛行禁止区域は、現地当局の規制や適切な判断に代わるものではありません。
- 救助チームが航空機を使って活動中の空域では、飛行を避けてください。



## 注記

手順書および付属書はすべて、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD 独自の裁量で変更されることがあります。最新の製品情報については、<http://www.dji.com> にアクセスして、Matrice 600 Pro 製品ページをクリックしてご覧ください。

## 用語集

本製品の関連資料では、以下の用語で製品操作時に起こりうる危険のレベルを示しています。

**注記** 注記: 手順を正しく実行しないと、物的損傷や人的な負傷のおそれがあります。

**注意** 注意: 手順を正しく実行しないと、物的損傷、および人的な重大事故のおそれがあります。

**警告** 警告: 手順を正しく実行しないと、物的損傷、および巻き添え事故、人的な重大事故のおそれがあるほか、高い確率で軽傷を負います。



### 警告

ユーザーマニュアル全文をよく読んで、機能に習熟してから、本製品を操作してください。本製品を安全かつ責任をもって操作しないと、傷害や本製品またはその他の財産の損害を招くおそれがあります。本製品は、大人の監督下でない子供の使用を想定していません。本製品は高度な機能を備えています。慎重かつ良識をもった操作とともに、基本的な機械知識が求められます。互換性のないパーツを使用しないでください。また、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD が提供する資料に記載されている以外の方法で本製品を改造しないでください。本安全ガイドラインには、安全、操作、メンテナンスの手順を記載しています。本製品を正しく操作し、損害や重傷を避けるためには、組み立て、設定、使用を開始する前に、本ユーザーマニュアルに記載する手順と警告をすべて読み、これに従ってください。

推奨年齢: 18 歳未満は対象外です。これは玩具ではありません。

## フライト前チェックリスト

1. 状態の良い純正部品のみを使うこと。
2. 送信機、インテリジェント・フライト・バッテリー、およびモバイルデバイスの充電が完了していること。
3. プロペラがモーターにしっかり取り付けられ、モーター、プロペラおよびフレームアームが展開され、モーターが正常に始動、作動すること。
4. すべての部品がしっかりと取り付けられ、ケーブルが正しく、しっかりと接続されていること。
5. GPS-Compass Pro 上のすべての矢印が機体の前方に向いていること。
6. 画面に表示される指示に従って、コンパスキャリブレーションをすること。
7. DJI GO アプリと機体のファームウェアが最新バージョンにアップグレードされていること。
8. 飛行する地域が飛行禁止区域外で、フライト条件が飛行に好適であること。
9. 飲酒時、服薬時など、認知能力が損なわれる可能性のある状態では、飛行を行わないこと。
10. 選択したフライトモードに習熟し、すべての安全機能と警告を理解していること。
11. 現地規制をすべて順守し、認可を適切に取得し、リスクを理解していること。確認事項: フライト規制の順守は、ユーザーの責任となります。
12. 機体から常に (ご自身の目による) 視線をそらさないこと。一人称視点のカメラだけに頼って機体を制御しないこと。
13. 機体の操作をサポートするため、DJI GO アプリが正しく起動されているかご確認ください。DJI GO アプリで記録されたデータがないと、特定の状況下において (機体の紛失も含む)、DJI はアフターセールスサービスを提供できない、もしくは、保証責任を負うことができません。

# 免責事項および警告

本製品は玩具ではありません。また、18 歳未満を対象としていません。Matrice 600 Pro は子供の手の届かない場所に保管してください。また、子供がいるところで機体进行操作する場合は、十分に注意してください。

製品には先進技術が採用されていますが、製品の不適切な使用により、けがや物的損害を引き起こすおそれがあります。製品を使用する前に、製品に関連する資料をお読みください。これらの文書は製品パッケージに含まれますが、オンラインの DJI 製品ページ (<http://www.dji.com>) でも入手できます。

本製品は、以下のように正常に操作できる状態であれば、簡単に飛行させることができるマルチコプター飛行プラットフォームです。最新の注意事項と警告については、<http://www.dji.com> をご覧ください。安全な飛行と法令順守の詳細については、<http://knowbeforeyoufly.org/> をご覧ください。

本書では、ユーザーの安全と法的権利と責任に関する情報を取り扱っています。ご使用前に、本書の全文をよくお読みになり、正しい設定を確認してください。本書の手順と警告を正しく理解して実行しない場合、本製品の損失、ユーザーの重傷、機体の損傷を招くおそれがあります。

本製品を使用すると、本書の免責事項をよく読み、記載される条件を理解し、これを順守することに同意したとみなされます。DJI 限定保証 (<http://www.dji.com/service> に掲載されているポリシー) に明示的な規定がない限り、製品およびすべての資料、製品を通して得られるコンテンツは「現状のまま」および「提供されているまま」で提供され、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も条件も伴いません。明示、黙示を問わず、DJI 限定保証に明示的に規定がない限り、製品、製品アクセサリ、すべての資料に関し、DJI は以下を含む、いかなる種類の保証も一切行いません。(A) 商品性、特定目的の適切性、権限、平和享有権、非侵害に対する黙示の保証、および (B) 取引の過程、使用、学習慣から生ずる保証。DJI 限定保証に明示的な規定がない限り、製品、製品アクセサリ、製品の一部、資料が、中断のないこと、安全で、エラー、ウイルス、その他有害なコンポーネントがないことを DJI は保証しません。また、それらの問題の修正も保証しません。

本規約に明示的な記載がない限り、口頭であれ書面であれ、製品、製品アクセサリ、資料から得られる助言や情報により、DJI または製品に関する保証は発生しません。製品、製品アクセサリ、資料の使用またはアクセスに起因するあらゆる損害に対するすべてのリスクは、すべてお客様が負うものとします。お客様の裁量とリスクにおいて本製品を使用し、けが、死亡、お客様の財産への損害 (本製品と接続して使用したコンピュータシステム、モバイルデバイス、DJI ハードウェアを含む)、第三者の財産への損害、本製品使用による、あるいは使用不能によるデータの損失に対して、お客様が単独で責任を負うことについてお客様は理解し、合意するものとします。

保証の免責を認めていない司法管轄区もあり、司法管轄区によっては別の権利を有する場合もあります。

本製品の使用により直接または間接的に発生する損害、傷害に対して、DJI は一切責任を負いません。ユーザーは、本安全ガイドラインの規定 (ただしこれに限定しない) をはじめとする、安全で合法的な使用を順守するものとします。

DJI は、SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD. (略して「DJI」) およびその関連会社の商標です。本書に記載されている製品、ブランドなどの名称は、その所有者である各社の商標または登録商標です。

## データの保管と使用方法

当社の製品、モバイルアプリ、その他のソフトウェアの使用、フライトテレメトリデータ (速度、高度、バッテリー寿命、ジンバルとカメラに関する情報) と操作記録など、製品の使用と操作に関するデータを DJI が指定するサーバーに自動または手動でアップロードして、保存することができます。本製品の内蔵ストレージデバイスにも、フライトテレメトリデータなどの各種データを保存できます。内蔵ストレージデバイスから手動で情報を転送して、フライトテレメトリデータなどのデータを当社サーバーに保存することもできます。

当社に自動または手動でアップロードされる情報は、ユーザー名などの個人情報が含まれ、その情報の保管時に、このようなアップロードされた情報への関連付け、識別のための使用、タグ付けが行われることがあります。ユーザー名などの個人データの取り扱いについては、当社のプライバシーポリシーに別途記載があります (<http://www.dji.com/policy>)。本製品や当社が配布するモバイルアプリなどのソフトウェアを使用する、または当社サーバーに手動でデータをアップロードすると、以下に同意したとみなされます。

- 当社ストレージにアップロードまたは提供したフライトテレメトリデータやその他のデータ（ユーザー名と組み合わせたもの）を当社内で保管する
- サポートやサービス提供の一環として、製品改善の目的でアップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を当社で利用する
- 当社代理人や請負業者にアップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を開示して、そのデータを当社の代理または当社との関係に関連して、利用する
- 法律の定めるところにより（公共の安全、政策）、または当事業資産の譲渡に関連して、あるいは当社の権利や財産を保護するため、データ共有が必要と誠実に判断した場合、アップロードまたは提供されたデータ（ユーザー名を含む）を開示する

# 準拠情報

## FCC 警告メッセージ

Any Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

This device complies with part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions: (1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

### FCC Radiation Exposure Statement:

This equipment complies with FCC radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This equipment should be installed and operated with minimum distance 20cm between the radiator & your body. This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter.

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

## IC RSS 警告

This device complies with Industry Canada licence-exempt RSS standard (s). Operation is subject to the following two conditions: (1) this device may not cause interference, and (2) this device must accept any interference, including interference that may cause undesired operation of the device.

Le présent appareil est conforme aux CNR d'Industrie Canada applicables aux appareils radio exempts de licence.

L'exploitation est autorisée aux deux conditions suivantes:

- (1) l'appareil ne doit pas produire de brouillage, et
- (2) l'utilisateur de l'appareil doit accepter tout brouillage radioélectrique subi, même si le brouillage est susceptible d'en compromettre le fonctionnement.

### IC Radiation Exposure Statement:

This equipment complies with IC RF radiation exposure limits set forth for an uncontrolled environment. This transmitter must not be co-located or operating in conjunction with any other antenna or transmitter. This equipment should be installed and operated with minimum distance 20cm between the radiator & your body.

Any Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

## KCC 警告メッセージ

해당무선설비는 운용 중 전파혼신 가능성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없습니다.”

“해당 무선설비는 운용 중 전파혼신 가능성이 있음”



인증받은자의 상호 : SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD

제품명 / 모델명 : 특정소출력무선기기(무선데이터통신시스템용무선기기)/M600P

제조사 및 제조국가 : SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD

제조년월 : 2016.10

인증번호 : MSIP-CRM-dji-M600P

해당 무선설비는 전파혼신 가능 성이 있으므로 인명안전과 관련된 서비스는 할 수 없음

## NCC 警告メッセージ

低功率電波輻射性電機管理辦法

第十二條 經型式認證合格之低功率射頻電機，非經許可，公司、商號或使用者均不得擅自變更頻率、加大功率或變更原設計之特性及功能。

第十四條 低功率射頻電機之使用不得影響飛航安全及干擾合法通信；經發現有干擾現象時，應改善至無干擾時方得繼續使用。前項合法通信，指依電信法規定作業之無線電通信。低功率射頻電機須忍受合法通信或工業、科學及醫療用電波輻射性電機設備之干擾。

## EU 準拠声明

SZ DJI TECHNOLOGY CO., LTD. hereby declares that this device is in compliance with the essential requirements and other relevant provisions of the R&TTE Directive.

A copy of the EU Declaration of Conformity is available online at [www.dji.com/euro-compliance](http://www.dji.com/euro-compliance)



EU contact address: DJI GmbH, Industrie Strasse. 12, 97618, Niederlauer, Germany

DJI は、この免責事項と安全に関するガイドラインを更新する権利を保持します。定期的に <http://www.dji.com> にアクセスし、また電子メールをチェックして、最新版をご確認ください。この免責事項は、複数の言語でご提供しています。言語版によって違いがある場合は、英語版が優先されます。

## 使用を開始する前に

Matrice 600 Pro を安全に操作し、活用いただくため、以下の資料をご用意しています。

同梱物

免責事項と安全に関するガイドライン

クイックスタートガイド

インテリジェント・フライト・バッテリー安全ガイドライン

ユーザーマニュアル

「同梱物」リストに記載されているパーツがすべて入っていることを確認してください。組み立てる前に、「免責事項および安全ガイドライン」をお読みください。次に、「クイックスタートガイド」を使用して初回フライトの準備をしてください。詳細については、DJI ウェブサイト上にある「ユーザーマニュアル」を参照してください。フライト前に、各部の機能、フライトの必須条件、主な緊急警告機能／システム、政府所管官庁の規制をすべて十分に理解しておくようにしてください。本製品の組み立て、メンテナンス、使用で不明な点や問題がある場合は、DJI または DJI 正規販売店にお問い合わせください。

## 各部署品

### 純正部品と機能部品について

#### 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

- 必ず DJI の純正部品または DJI が認定する部品をお使いください。非正規の部品や DJI 認定メーカー以外が製造した部品を使用すると、システムに不具合が発生し、安全性を損なうおそれがあります。
- 機体やパーツ内に異物（水、オイル、土、砂など）がないことを確認してください。
- 機体およびそのパーツ（送信機、フライトコントローラー、LIGHTBRIDGE™ 2 エアシステム、ランディングギア、GPS、コンパス、推進システム、バッテリーなど）がすべて良好な作動状態で損傷がなく、正常に機能することを確認してください。パーツの機能を確実に維持する方法の詳細については、本書の他のセクションを参照してください。
- フライトコントローラー、電源管理ユニット、Lightbridge 2 エアシステムなど、機体付属のパーツを取り外して他の用途に使用しないでください。それらのパーツを他の部品と交換しないでください。
- 機体およびそのパーツを変更したり、改造したりしないでください。非正規の改造により不具合が生じたり、機体の機能や安全性に影響するおそれがあります。

### 送信機

#### 注 記

- フライト前に送信機が完全に充電されていることを必ず確認してください。
- 送信機の電源がオンの状態で 5 分間操作されないと、アラートが鳴ります。10 分経過すると、自動的に電源がオフになります。スティックを動かすか、他の操作を実行すると、アラートは止まります。
- モバイルデバイスをしっかりと支えられるよう、モバイルデバイス・ホルダーのクランプを調整してください。
- 送信機のアンテナを展開し、最適な伝送品質を達成できるよう、正しい位置に調整します。
- 送信機に損傷があれば、修理するか、交換してください。送信機アンテナに損傷があると、性能が大幅に低下します。
- 送信機の GPS を適切に機能させ、ホームポイントの精度を確保するためには、DJI ロゴが上向きで、送信機の付近に金属がないことを確認してください。
- 送信機またはレシーバを交換したり、新しい送信機を追加したりする場合は、ペアリングが必要です。詳細については、ユーザーマニュアルを参照してください。
- （安全を確認後）必ず機体のスイッチを切ってから、送信機のスイッチを切ってください。そうしないと、機体の制御が失われるおそれがあります。

## センターフレーム

### 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. センターフレームの予備ポートをショートさせないでください。
2. センターフレームには予備として 2 つの DC 18 V 電源ポートと 1 つの LIPO-6S 電源ポートがあります。DC 18 V 電源ポートは出力 18 V、最大出力電流は 3A です。LIPO-6S 電源ポートはインテリジェント・フライト・バッテリーと同じ出力で、最大出力電流は 10 A です。電源ポートの仕様に厳密に従って電源ポートを使用してください。
3. センターフレームの上下プレートを着脱する際に、ケーブルが損傷しないように気をつけてください。

## フレームアーム

### 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 配送時、Lightbridge 2 エアシステムの外付けアンテナが M3 および M6 のフレームアームに取り付けられています。アンテナの位置を動かさないようにしてください。

## 格納式モジュール

### 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 左右格納式モジュールの配線が逆にならないようにしてください。正しく配線しないと、ランディングギアが正常に機能しません。

## ランディングギア

### 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. スプリングをランディングギアに取り付ける際は指先にご注意ください。
2. 着陸する前にランディングギアを必ず下げてください。

## フライト・コントロール・システム

### 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

フライトコントローラー

1. フライトコントローラーの構造を改造しないでください。
2. フライトコントローラーの取り付け位置と方向を変更しないでください。
3. フライトコントローラーのポートをショートさせないでください。
4. ポートの説明に厳密に従ってケーブルを接続してください。

### PMU (電源管理ユニット)

1. PMU は入力電圧範囲 10.5~51 V (3~12S バッテリーに相当)、出力電圧 は9 V、最大出力電流は2A です。必ずこれらの仕様に厳密に従って PMU を使用してください。
2. センターフレームから延びた電源ケーブルを使用して PMU に電源を供給してください。

### IMU Pro (冗長性のある慣性計測装置)

1. IMU Pro の取り付け位置と方向を変更しないでください。
2. DJI ASSISTANT™ 2 を正しく設定する。

#### 注 記

#### フライトコントローラー

1. フライトコントローラーは耐水性でも耐油性でもありません。いかなる液体類にも接触させないでください。
2. フライトコントローラーがしっかりと固定されているかを定期的に点検してください。
3. フライトコントローラーの近くに熱を発する機器を置かないでください。

#### PMU

1. PMU は耐水性も耐油性もありません。いかなる液体類にも接触させないでください。
2. 放熱とシステムパフォーマンスを最大化するために PMU をブロックしたりカバーしたりしないでください。

#### IMU Pro

1. IMU Pro には耐水性も耐油性もありません。いかなる液体類にも接触させないでください。
2. IMU Pro がしっかりと固定されているかを定期的に点検してください。

## Lightbridge 2 エアシステム

#### 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. Matrice 600 Pro 付属の DBUS ケーブルのみを使用してください。別のケーブルを使うと、Lightbridge 2 エアシステムは正常に機能しません。

## GPS-Compass Pro

#### 警告

パーツの不具合、重傷、物的損害を避けるため、以下の事項を守ってください。

1. 各フライト前に、GPS Compass Pro の折りたたみ式マウントを展開し、GPS 延長ロッドをしっかりと取り付けてください。
2. GPS Compass Pro をしっかりと取り付け、矢印を機体の前方に向けてください。
3. DJI Assistant 2 を正しく設定してください。

#### 注 意

予想される重傷や物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 機体がまっすぐに飛行できないなど、フライト中に激しいドリフトが発生した場合は、すぐに着陸させてください。

## 注 記

### GPS

1. GPS Compass Pro の折りたたみ式マウントに指を挟まれないよう注意してください。
2. GPS 延長ロッドを使用し、機体のボディから GPS Compass Pro を離してください。
3. 屋外で飛行させてください。高いビルや鉄骨の建物は、GPS 信号をブロックし、機体に搭載されたコンパスの精度に影響を及ぼすことがあります。

### コンパス

1. 初回フライト前に、必ずコンパスキャリブレーションしてください。
2. 磁鉄鉱、駐車場ビル、補強鋼を使用した地下階層など強い磁性干渉を受ける可能性のある場所でコンパスキャリブレーションしないでください。
3. キャリブレーション中は、携帯電話などの強磁性体を身に着けないでください。
4. DJI GO アプリは、キャリブレーション完了後、強力な干渉によりコンパスが影響を受けた場合、コンパスの問題を解決するよう確認メッセージが表示されます。表示された指示に従ってコンパスの問題を解決してください。

## 推進システム

### ⚠ 警告

回転中のプロペラとモーターにより、操縦者や周囲の人が重傷を負わないよう、以下の規則を順守してください。

### プロペラ

1. 欠けたり、損傷したり、古くなったプロペラは使用しないでください。
2. 必ず機体の電源をオフにしてから、プロペラに触れてください。
3. プロペラを取り付ける、または取り外す際には、プロペラの鋭い先端に気をつけてください。プロペラに触れる際には、手袋を着用するなどの保護対策を講じてください。
4. 各フライト前に、プロペラがモーターから脱落しないように、しっかりと取り付けられ、締め付けられていることを確認してください。
5. フライト前に、プロペラがしっかりと取り付けられていることを必ず確認してください。
6. 付近に他の人や動物がいる場合は、プロペラを取り付けた状態で、モーターの電源をオンにしないでください。
7. DJI が認証していないプロペラを使用すると、機体の性能が損なわれるおそれがあります。

### モーター

1. モーターがしっかりと取り付けられ、スムーズに回転することを確認してください。
2. モーターを改造しないでください。
3. フライト後、モーターが高温になっていることがあるため、モーターに触れたり、手や体が接触したりしないようにしてください。

## 注 意

予想される重傷や物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. モーターの通気孔を塞がないでください。

## 注 記

### モーター

1. モーターにほこりが付かないようにしてください。

2. モーターが動かず、自由に回転しない場合は、CSC（コンピネーションスティックコマンド）を実行して、モーターを緊急停止してください。
3. モーターの電源をオンにして、動作音に異常がないことを確認してください。

## DJI GO アプリ

### 注 記

1. タブレットやモバイルデバイスを完全に充電してから、DJI GO アプリを起動します。最良の操作性が得られるように、タブレットの使用をお勧めします。
2. スマートフォンをディスプレイとして使用している場合は、電話に着信があっても安全に飛行を続けられるようにしてください。飛行中に電話に応答したり、メッセージ機能を使用したりしないでください。
3. 画面に表示される安全性に関するヒント、警告メッセージ、および免責事項をよくお読みください。お使いの地域の関連規制を頭に入れておいてください。ユーザーには、関連規制をすべて認識のうえ、これを順守して飛行する責任があります。警告メッセージを読んで内容を理解してから、以下の操作を行ってください。
  - a. 自動離陸および自動着陸機能
  - b. ホームポイントの再設定
  - c. デフォルトの制限を超える高度の設定
  - d. フライトモードの切り替え
4. アプリに警告メッセージが表示された場合は、機体をただちに着陸させてください。
5. アプリに表示されるチェックリストで必ず警告メッセージをすべて確認してから、フライトしてください。
6. これまでに機体の操作をしたことがない場合、または機体を快適に操作するのに十分な経験がない場合は、アプリのシミュレーターを使って、フライトスキルを向上させてください。
7. インターネットに接続して、飛行地域の地図データをキャッシュしてから、フライトしてください。
8. このアプリは、操作をアシストするために設計されています。アプリに依存せずに、ご自身の適切な判断に基づいて機体を操作してください。
9. アプリの使用は、DJI GO アプリの利用規約と DJI プラバシーポリシーの対象となります。アプリでこれらをよくお読みください。

## ファームウェア

### 警告

子供や動物が重傷を負わないよう、以下の規則を順守してください。

1. **ファームウェアのアップグレード、システムキャリブレーション、パラメータ設定の作業中は、安全確保のため、子供や動物を近づけないでください。**

### 注 記

1. 安全のため、ファームウェアのアップグレード通知が DJI GO アプリに表示された場合は、必ず最新バージョンに更新してください。
2. ファームウェアアップグレード通知により、新しいファームウェアにアップグレードするよう通知されます。表示される内容を読んで理解してください。フライトテレメトリデータやユーザー選択レコードをはじめとするデータ（ただしこれに限定しない）を、DJI が指定するサーバにアップロードして、保存できることも理解して、同意するものとします。
3. 必ず公式の DJI ファームウェアをお使いください。
4. 機体のファームウェアを更新した後は、必ず送信機のファームウェアを最新バージョンに更新してください。
5. 更新後、送信機と機体とのペアリングが外れる場合があります。その場合は、送信機と機体を再度ペアリングしてください。

# 本製品のお手入れ

## 保管と輸送

### ⚠ 警告

子供や動物が深刻な事故に合わないよう、以下の規則を順守してください。

1. ケーブルやストラップなどの小さい部品を飲み込むと危険です。部品はすべて、子供や動物の手の届かない場所に保管してください。
2. 運搬中はインテリジェント・フライト・バッテリーを取り外してください。
3. 運搬中や長期間保管する場合は、機体からジンバルを取り外してください。

### 注 記

1. 内蔵の LiPo バッテリーが過熱しないよう、インテリジェント・フライト・バッテリーと送信機を直射日光の当たらない、涼しく乾燥した場所に保管してください。3 ヶ月以上の期間にわたって保管する場合は、22 ～ 28° C の保管環境温度を推奨します。温度が -20 ～ 45° C の範囲を超える環境では保管しないでください。

## メンテナンスと保管方法

### 注 記

1. 機体が常に正常に作動するように、50 フライトごと、または 20 時間以上のフライト後に機体を点検してください。
2. 墜落や激しい衝撃を受けた場合は、機体の各部を確認してください。問題や不明点がある場合は、DJI 正規販売店にご連絡ください。
3. バッテリーレベルインジケーターを定期的に確認して、現在のバッテリーレベルとバッテリー寿命全体を確認してください。バッテリー寿命が 0 % に達したバッテリーは、使用できません。
4. バッテリーのメンテナンスと維持については、『インテリジェント・フライト・バッテリー安全ガイドライン』を参照してください。

# フライトの必須条件

## 気象条件と周辺環境

### ⚠ 警告

機体は、穏やかな気象条件で正常に動作するように設計されています。墜落、重傷、物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 悪天候時に機体を使用しないでください。厳しい気象条件とは、風速 8m/s 超、雪、雨、スモッグ、強風、霧、雷、竜巻やハリケーンなどです。
2. フライト時には、機体を障害物、人、動物、建造物、公共インフラ、樹木、水域から 10 m 以上離してください。機体の高度が上昇するのに合わせて、上述の物体や障害物からさらに遠く離してください。
3. 機体を屋内で操作する場合は、特に注意してください。機体の機能の一部、特に安定化機能が影響を受ける場合があります。

### 注 記

1. 機体とバッテリーの性能は、空気密度や気温などの環境要因に左右されます。
  - a. 海拔 2,500 m 以上の高度で飛行させるときは、バッテリーと機体の性能が落ちる可能性があるので、細心の注意を払ってください。
2. 事故、火災、爆発、洪水、津波、雪崩、地滑り、地震、粉塵、砂嵐の環境下では、機体を使用しないでください。

## フライトコントローラーおよび通信との干渉

### 注 記

1. 屋外で飛行させてください。高いビルや鉄骨の建物は、機体内に搭載するコンパスや GPS 信号の精度に影響を及ぼすおそれがあります。
2. 送信機が影響を受ける場合があるので、他の無線機器からの干渉を避けてください。モバイルデバイスの Wi-Fi を必ずオフにしてください。
3. 磁気・電波の妨害や干渉のある地域のある地域の近接を飛行すると、GPS やコンパス、送信機、動画伝送などのエラーの原因になります。(例: 高圧電線、大規模送電所、携帯電話基地局、放送用タワーの付近等) 強い干渉のある地域では、機体の動作が異常になったり、制御できなくなったりすることがあります。

## 責任をもった機体操作

### ⚠ 警告

重傷や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 飲酒、服薬、麻酔などの影響はないか、めまい、疲労、吐き気などの症状がないか、あるいは身体的、精神的に、機体を安全に操作する能力があることを確認してください。
2. 飛行中にモーターを緊急停止しないでください。ただし、緊急停止することで破損やけがのリスクを低減できるような緊急の場合を除きます。
3. 着陸したら、まず機体の電源をオフにし、次に送信機のスイッチをオフにしてください。
4. 機体を落下させたり、打ち上げたり、発射したり、危険な積荷を積載したり、建物、人、動物に向けて操作しないでください。人的傷害や物的損害が生じるおそれがあります。

#### 注 記

1. 操縦者が十分に操縦に熟達していること、緊急事態や事故発生時への対応策があることを確認してください。
2. 飛行計画が策定されており、無謀な飛行ではないことを確認してください。
3. カメラの使用時には、他者のプライバシーを尊重してください。現地のプライバシー法規制と道徳的規準を必ず順守してください。
4. 本製品を、不法または不適切な目的のために使用しないでください。(例: スパイ行為、軍事活動あるいは無許可調査など)。
5. 本製品を中傷、虐待、嫌がらせ、ストーキング行為、脅迫など、他人の法的権利(プライバシー権やパブリシティ権など)を侵害する行為に使用しないでください。
6. 他人の私有地に侵入しないでください。

# フライトモード、機能と警告

## フライトモード

### 警告

重傷や物的損害を回避するため、以下の規則を順守してください。

1. 各フライトモードでの機体の挙動を十分に習得していないかぎり、P モードから A モードまたは F モードに切り替えないうでください。これにより、GPS が無効になるため、機体を安全に着陸させられなくなるおそれがあります。

### 注記

ほとんどの飛行では、P モードが適しています。P モードが利用できない場所やタイミングでは、A モードに切り替えることができます。A モードでは一部使用できない機能があることを認識し、A モードでの飛行時は特に注意してください。

1. P モード (ポジショニング) : GPS 信号が強い場合は P モードの作動が最適です。P モードには様々な状態があり、Matrice 600 Pro が GPS 信号強度に応じて状態を自動的に選択します。
  - a. P-GPS: GPS を利用でき、機体は GPS を使用してポジショニングします。
  - b. P-ATTI: GPS が使用できないとき、機体はポジショニングにその機体の気圧計のみを使用します。このため、高度のみがコントロールされます。
2. A モード (姿勢) : ポジショニングのために GPS は使用せず、機体は高度を維持するのに気圧計のみを使用します。それでもなお GPS 信号を受信している場合は、送信機の信号が途絶え、ホームポイントが正常に記録されている場合、機体は自動的にホームに戻ることができます。
3. F モード (機能) : このモードでは、インテリジェントフライトが作動しています。インテリジェントフライトの機能に習熟してから、使用してください。

GPS 支援 (A モードなど) が無効なモードに切り替えようとする、この機能を有効にするよう免責条項が表示され、これに同意する必要があります。この機能が有効になっている場合、フライトテレメトリや機能レコードなどのデータ (ただし、これに限定されない) を DJI が指定するサーバにアップロードして、保存できることを理解して、これに同意するものとします。

## フェイルセーフと Return-to-Home

### 注記

1. GPS 信号が不十分な場合、または GPS が有効ではない場合、Return-to-Home は機能しません。
2. 機体をホームポイントに戻すには、送信機の RTH (Return-to-Home) ボタンを押します。機体をホームポイントに強制的に戻す目的で送信機をオフにはいけません。
3. 高層ビルは、Return-to-Home に悪影響を及ぼすことがあります。ホームに戻るまでに障害物を避けられるように、あらかじめ機体の位置や高度、および速度を調整してください。
4. 機体は常に送信機の伝送域内で飛行させてください。
5. ホームポイントを更新する際には、送信機の GPS 信号を妨害しないようにして、新しいホームポイントをライブマップで正確に設定してください。
6. Return-to-Home は天候、環境、周辺の磁場の影響を受けることがあるため、緊急時のみ使用してください。
7. 高いビルの近くでは、GPS が妨害され、正確ではない位置が保存されるおそれがあるため、ホームポイントの更新はしないでください。
8. 機体はフェイルセーフ Return-to-Home 中に障害物を避けることができないため、各フライト前に適切なフェイルセーフ高度を設定することが重要です。

9. フェールセーフ Return-to-Home 中に送信機の信号が復旧すると、操縦者が機体の制御を取り戻せる場合があります。機体が高度 20 メートル以上に上昇した際、左スティックを動かすと、上昇プロセスはキャンセルされ、ホームポイントにすぐに戻るよう機体に命令されます。フェールセーフ Return-to-Home 中に RTH ボタンを 1 回押すと、Return-to-Home がすぐにキャンセルされます。

## 低バッテリー

### 注 記

1. 重大なバッテリー低レベル警告が起動して機体が自動的に降下するとき、スロットルを押し上げて機体の高度を維持して、より適切な着陸地点へ機体を誘導することができます。
2. バッテリーに関する警告が発信された場合は、機体をホームポイントに速やかに戻すか、着陸させてください。そうしないと、フライト中に電池切れになり、機体の損傷、物的損害、動物や人への傷害が発生するおそれがあります。

# 規制順守と飛行禁止区域

## 規制

### 警告

法令不履行、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 高度に関係なく、有人の航空機周辺で操作しないでください。(必要であれば、速やかに着陸させてください)
2. 都市部、スポーツイベント、展示会、公演など、多くの人が集まる地域では飛行させないでください。
3. 認可を受けた高度を超えて飛行させないでください。有人の航空機の航路から十分な距離を保ち、運行を妨げないでください。常に他の航空機や障害物に注意して、回避してください。

### 注意

法令不履行、重傷、物的損害を避けるため、以下の規則を順守してください。

1. 現地法および規制で指定された飛行禁止区域の周辺やゾーン内を飛行しないでください。飛行禁止区域の一覧は、空港、2 つの主権国間の国境または地域間の境界、大都市／地域間の境界などが記載されており、常に更新されています。
2. 認可を受けた高度を超えて飛行させないでください。
3. 常に機体を視界内に捉え、必要であれば、立会者に支援を要請します。
4. 違法または危険な物品／貨物の運搬に機体を使用しないでください。

### 注記

1. 実施するフライトの内容／種類(レクリエーション、公共利用、商業的使用など)を理解して、関係所管庁から飛行に関連する承認と認可を受けていることを確認してから、フライトしてください。包括的な定義と個別の要件については、現地の規制当局にお問い合わせください。米国で機体进行操作する場合、まず <http://www.knowbeforeyoufly.org/> にアクセスして、状況に合う最も適切な措置を講じてください。
2. 特定の国と地域では、リモート制御の航空機を使った商業活動を禁止している場合がありますので、ご注意ください。実際の規則が本書の記載と異なることがあるため、フライト前に現地の法規制や条例をすべて確認し、これに従ってください。
3. 発電所、水処理施設、矯正施設、交通量の多い道路、政府施設、軍事用ゾーンなど、慎重な対処が求められる基幹施設や敷地周辺を飛行しないでください。
4. カメラの使用時には、他者のプライバシーを尊重してください。いかなる人物、団体、イベント、パフォーマンス、展示会、敷地においても、認可を受けないかぎり画像撮影やビデオ録画などの調査を実施しないでください。個人的目的で画像やビデオを撮影する場合でも、プライバシーに関わる場合は、同様の配慮が必要です。
5. 特定の地域では、イベント、パフォーマンス、展示会、商用の不動産物件の画像またはビデオをカメラで記録する場合に、たとえ個人使用の目的であっても、著作権またはその他の法的権利を侵害することがありますのでご注意ください。

## 飛行禁止区域

### 注 記

DJI は常にフライト中の安全を重視しており、ユーザーが現地規則と規制を順守して飛行できるよう、さまざまな補助ツールを開発しています。当社は、ファームウェアを最新バージョンに更新して、以下の機能がすべて更新されていることを必ず確認してください。

#### 飛行禁止区域

1. 飛行禁止空域には、世界各地の主要な空港、2 つの主権国間の国境または地域間の境界、主要都市／地域間の境界線などがありますが、これに限定されません。
2. 飛行禁止区域の詳細リストは、DJI 公式ウェブサイト <http://flysafe.dji.com/no-fly> に掲載されていますが、最新の規制要件に準じて、事前の予告なく定期的に更新されます。
3. 一部の飛行禁止空域は、複数のゾーンで構成されています。各ゾーンは、さまざまな大きさの円で示されます。飛行禁止空域の最も内側のゾーンでは離陸が禁止されており、最も内側のゾーンの境界部に向かうほど、指定高度まで降下させます。飛行禁止区域内では、グランドステーション機能が無効になります。
4. 飛行禁止区域内では、ウェイポイントを設定できません。

#### 高度制限

1. 高度 120 m より上空には飛行させないでください。また、周辺の障害物からは安全な距離を確保してください。
2. デフォルトの高度制限を超えて飛行しようすると、新しい高度制限を有効にするよう免責条項が表示され、これに同意する必要があります。新しい高度制限が設定された際には、フライトテレメトリデータ、高度制限変更などのデータが DJI が指定するサーバーにアップロードされ、保存されることを理解し、これに同意するものとします。

DJI サポート

<http://www.dji.com/support>

本内容は変更されることがあります。

最新版は下記よりダウンロードしてください。

<http://www.dji.com/matrice600-pro>

If you have any questions about this document, please contact DJI by sending an email to [DocSupport@dji.com](mailto:DocSupport@dji.com).

MATRICE™ は DJI の商標です。

Copyright © 2016 DJI All Rights Reserved.



Printed in China.